

令和4年度かしわらっ子はぐくみテスト
における結果の概要について

柏原市教育委員会

1. 目的

- 児童が自身の学習状況について知ることにより、学習に対しての目標を持ち、その向上にむけて意欲を高める。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 概要

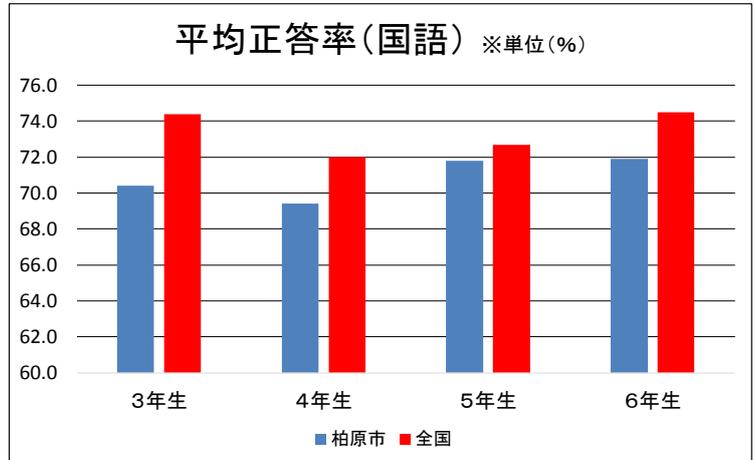
- (1)実施日 令和4年12月8日(木)
- (2)対象 柏原市立小学校に通う第3学年から第6学年の児童
- (3)内容 ①教科に関する調査(国語、算数)
②生活習慣や学習に関する質問紙調査(i-Check)

令和4年度かしわらっ子はぐくみテスト結果

今年度の結果(国語)

平均正答率		
	柏原市	全国
3年生	70.4	< 74.4
4年生	69.4	< 72.0
5年生	71.8	< 72.7
6年生	71.9	< 74.5

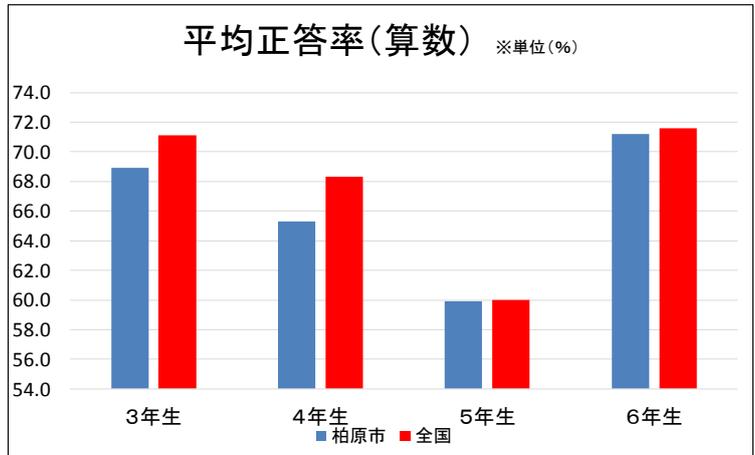
※単位(%)



今年度の結果(算数)

平均正答率		
	柏原市	全国
3年生	68.9	< 71.1
4年生	65.3	< 68.3
5年生	59.9	< 60.0
6年生	71.2	< 71.6

※単位(%)

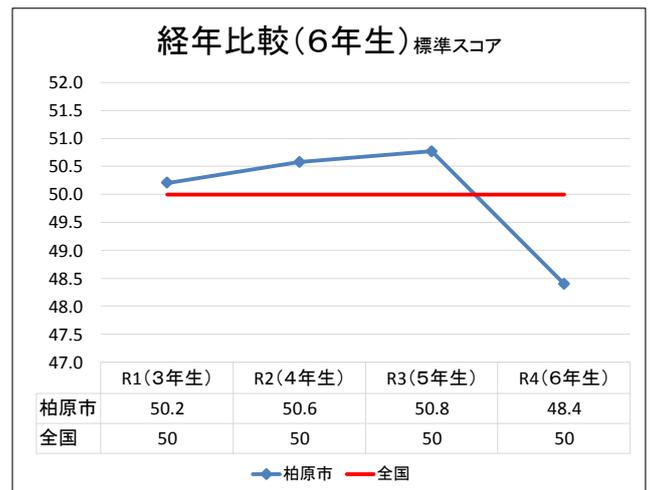
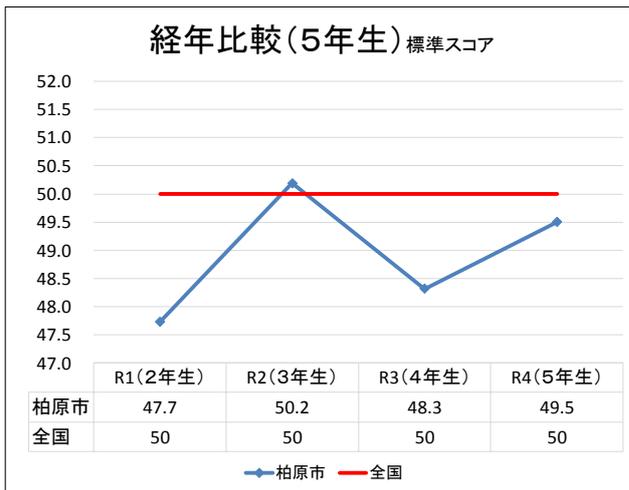
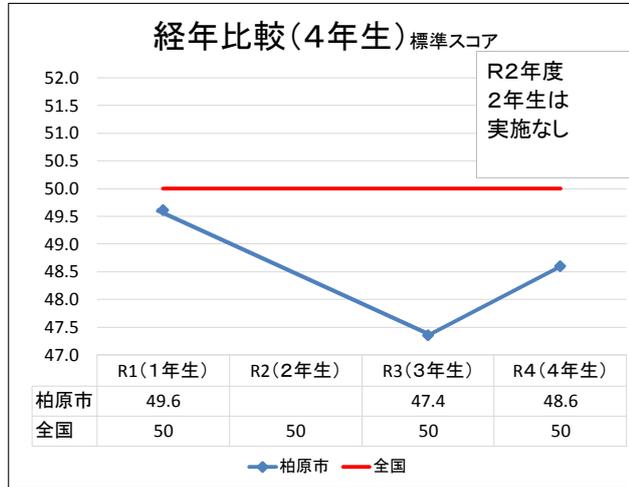


国語、算数ともに全学年において全国平均を下回る結果となった。

令和4年度かしわらっ子はぐくみテスト結果

同一集団の成長(国語)

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

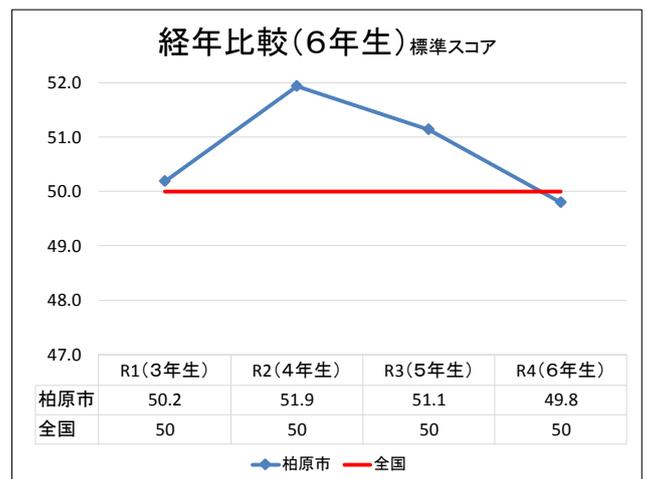
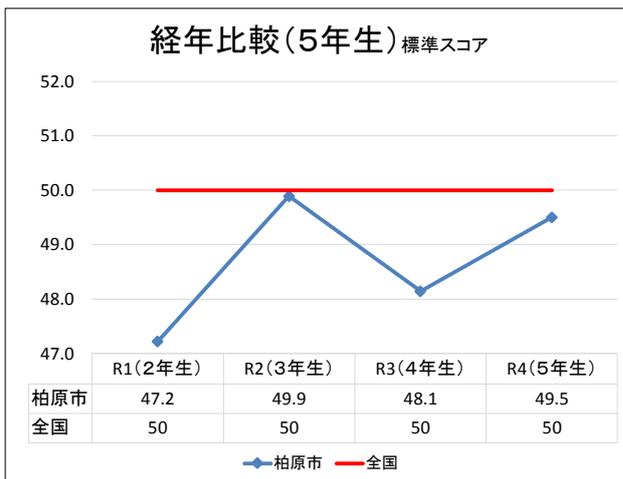
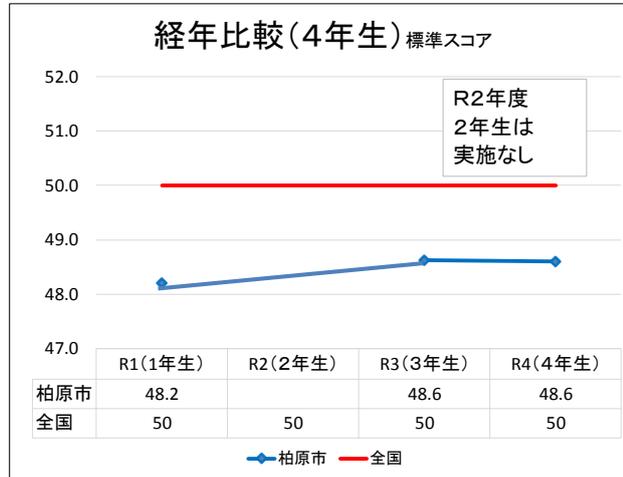


4・5年生は上昇傾向である。
6年生は令和元年度から3年間に渡って全国平均を上回っていたが、今回は下降し、全国平均を下回る結果となった。

令和4年度かしわらっ子はぐくみテスト結果

同一集団の成長(算数)

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

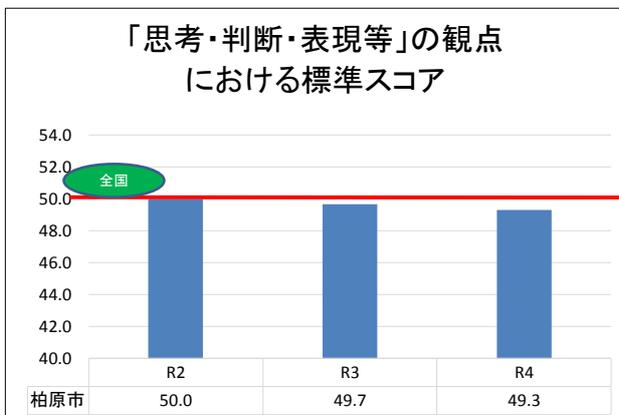


- ・4年生は、前回と同じ結果となった。
- ・5年生は昨年度に比べ上昇したものの、全国平均を下回った。
- ・6年生は前回よりも下降し、全国平均を下回った。

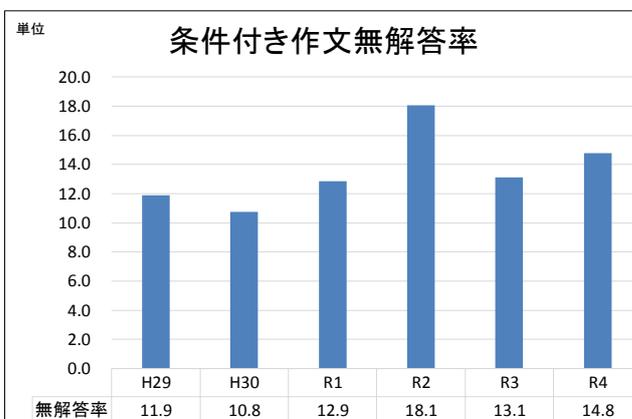
「思考・判断・表現等」の観点と「書く力の育成」について検証

「思考・判断・表現等」の観点における標準スコア(国算)の推移

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの柏原市の正答率を換算した値です。

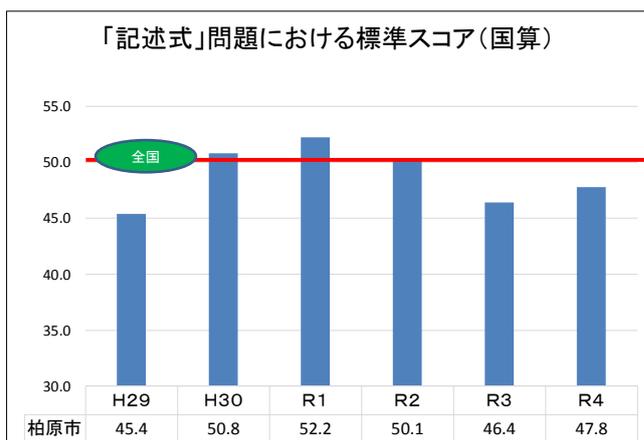


国語における条件付き作文問題無解答率の推移



「記述式」問題における標準スコア(全国比)の推移

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの柏原市の正答率を換算した値です。



市で重点的に取り組んでいる「思考・判断・表現等」の観点に関するデータである。

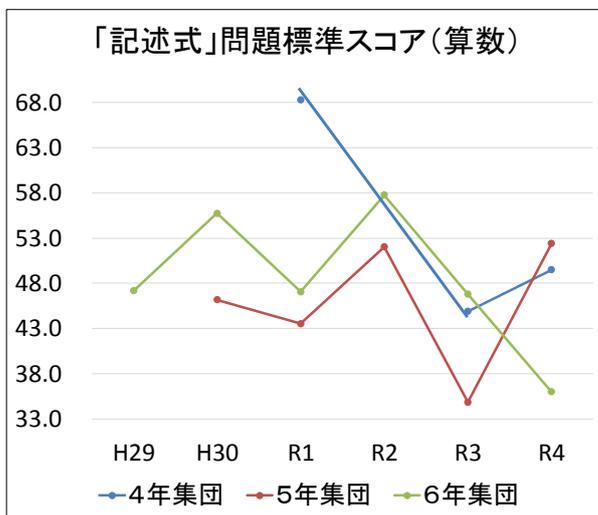
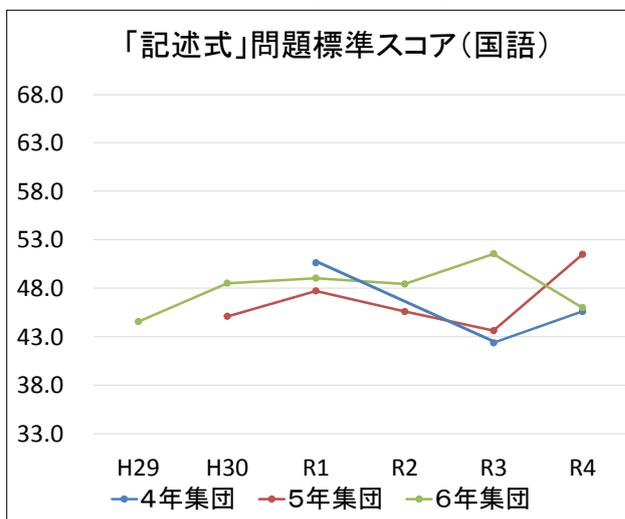
国語科・算数科における「思考・判断・表現等」の観点については、3・4年が上昇したが、市としては0.4%下降している。

無回答率については1.7%上昇している。

教科別の「記述式」問題の同一集団の推移を見てみると、国語・算数共に4・5年生が上昇し、6年生は下降している。高学年における記述式問題の取り組み方について課題があるととらえる。

「記述式」問題における同一集団の推移

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

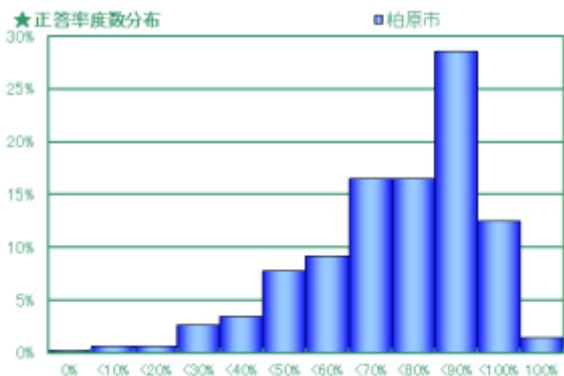


国語(3年)

問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率		＜標準スコアによるカテゴリー間の比較＞
		柏原市	全国	
	全体	70.4	74.4	
	基礎	76.0	79.7	
	活用	58.4	63.0	
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や扱い方に關する事項	74.5	78.6	
	情報の扱い方に關する事項	40.6	45.9	
	話すこと・聞くこと	88.2	90.8	
	書くこと	50.3	57.9	
評価の観点	読むこと	71.0	73.0	
	知識・技能	66.7	71.0	
	思考・判断・表現	66.1	70.5	
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	53.4	59.3	
	選択	73.9	78.0	
	短答	79.5	78.0	
	記述	59.2	59.5	



○記述の問題形式について、昨年度は全国より約5ポイント下回っていたが、今回は全国とほぼ同程度となった。

▼領域別にみると、「書くこと」の領域が一番開きが大きく、全国を7.6%下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

国語(3年)問題で課題の見られた設問

正答・・・(略)

著作権の関係で表示できません。

「文章を書く」問題である。①指定された長さで文章を書く力 ②段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く力 ③内容の中心を明確にし、自分の考えを書く力 ④自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして書く力が求められる。段落数や内容・根拠、文字数について条件を設け、自分の考えとその理由をまとめる活動を繰り返し行うことにより、簡潔かつ中心を捉えた文章を書くことができるようになる。学習の記録、読書感想文、日記など数多くの場面において、書く内容を整理して継続的に文章を書くという経験を積ませることが大切である。

①「指定された長さで書く」正答率は、本市が55.7%、全国が66.0%で、10.3%全国を下回った。

②「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く」正答率は、本市が49.2%、全国が60.2%で、11.0%全国を下回った。

③「内容の中心を明確にし、自分の考えを書く」正答率は、本市が63.7%、全国が73.3%で、9.6%全国を下回った。

④「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして書く」正答率は、本市が55.3%、全国が61.9%で、6.6%全国を下回った。

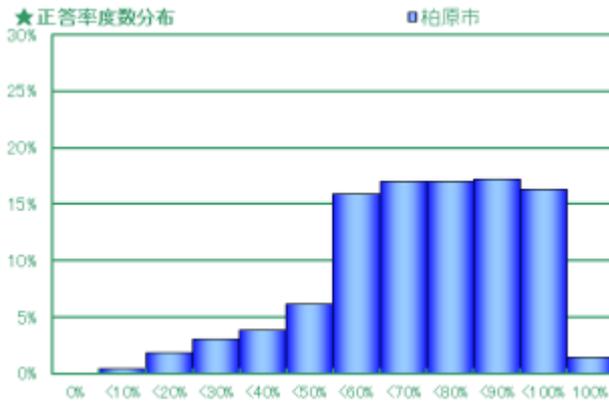
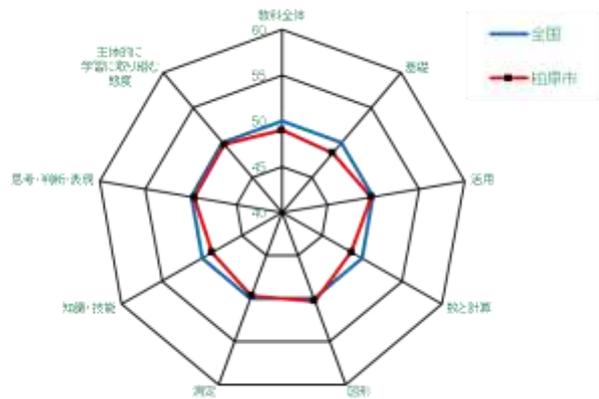
算数(3年)

問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
	全体	68.9	71.1
	基礎	73.8	77.1
	活用	61.8	62.4
学習指導要領の領域等	数と計算	66.2	69.4
	図形	76.5	75.6
	測定	73.1	74.0
評価の観点	知識・技能	72.5	75.1
	思考・判断・表現	58.1	59.2
	主体的に学習に取り組む態度	62.4	63.2
問題形式	選択式	72.6	74.0
	短答式	68.1	71.7
	記述式	45.2	43.6

＜標準スコアによるカテゴリー間の比較＞



○全体の平均正答率をやや下回ったものの、概ね全国の平均正答率に近い結果だった。

○領域別に見ると、「図形」の領域は全国よりも0.9%上回った。

○記述式の問題形式について、全国を1.6%上回った。

▼「数と計算」の領域が一番開きが大きく、全国を3.2%下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

算数(3年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

正答 4

乗法のきまり(分配法則)を理解しているかが問われている問題である。乗法のきまりは、教師が一方向的に指導するのではなく、2年生の段階で九九表から児童が発見できるようにし、そのきまりが成り立つかを確かめさせる活動が大切である。また、式のみで考えさせるのではなく、本問のように図と関連させながらきまりについて説明させる活動も効果的である。

正答率は、本市が66.7%、全国が75.6%で、8.9%全国を下回った。

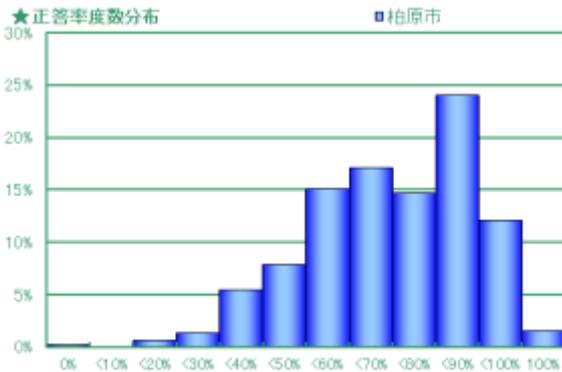
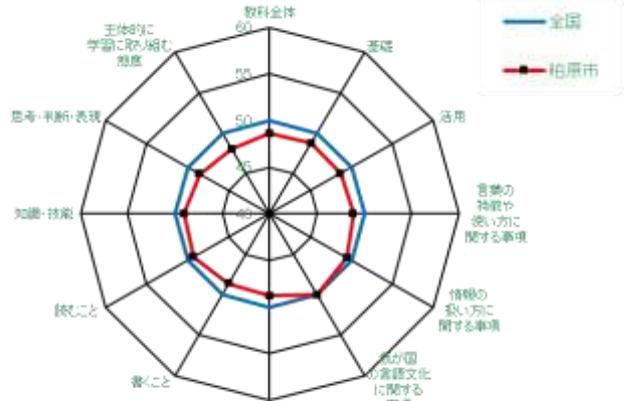
国語(4年)

問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
	全体	69.4	72.0
	基礎	76.6	78.9
	活用	55.8	59.1
学習指導要領の領域等	言葉の精緻や使い方に關する事項	80.6	82.8
	情報の扱い方に關する事項	57.2	59.1
	我が国の言語文化に關する事項	78.1	77.9
	話すこと・聞くこと	60.2	63.3
	書くこと	52.6	58.2
評価の観点	読むこと	65.2	67.0
	知識・技能	75.8	77.7
	思考・判断・表現	60.2	63.4
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	52.2	58.3
	選択式	69.7	71.9
	短答式	82.8	83.8
	記述式	53.1	58.5

＜標準スコアによるカテゴリー間の比較＞



○領域別にみると、「我が国の言語文化に關する事項」が、全国を0.2%上回った。

▼全国の平均正答率を2.6%下回った。

▼問題形式別にみると、「記述式」問題が全国を1.6%下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

国語(4年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

正答・・・(略)

「文章を書く」問題である。①指定された長さで文章を書く力 ②段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く力 ③内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く力 ④内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書く力が求められる。段落数や内容・根拠、文字数について条件を設け、自分の考えとその理由をまとめる活動を繰り返し行うことにより、簡潔かつ中心を捉えた文章を書くことができるようになる。学習の記録、読書感想文、日記など数多くの場面において、書く内容を整理して継続的に文章を書くという経験を積ませることが大切である。

①「指定された長さで書く」正答率は、本市が65.9%、全国が71.8%で、5.9%全国を下回った。

②「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く」正答率は、本市が57.5%、全国が59.1%で、1.6%全国を下回った。

③「内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く」正答率は、本市が51.6%、全国が61.3%で、9.7%全国を下回った。

④「内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書く」正答率は、本市が35.4%、全国が40.4%で、5.0%全国を下回った。

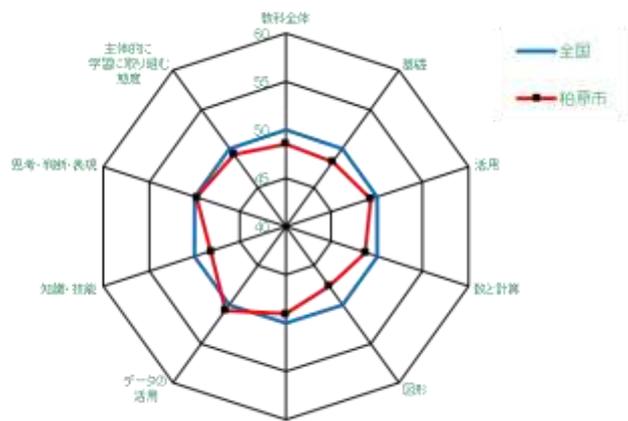
算数(4年)

問題別調査結果

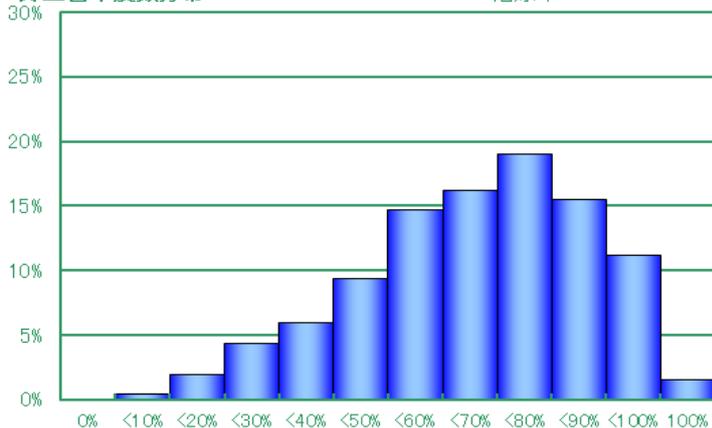
※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
全体		65.3	68.3
基礎		70.6	74.2
活用		53.6	55.5
学習指導要領の領域等	数と計算	66.4	69.2
	図形	59.4	65.4
	変化と関係	59.3	62.5
	データの活用	69.4	66.6
評価の観点	知識・技能	68.4	72.2
	思考・判断・表現	56.0	56.6
	主体的に学習に取り組む態度	41.8	44.2
問題形式	選択式	68.9	71.6
	短答式	66.6	70.3
	記述式	27.5	27.8

＜標準スコアによるカテゴリ間の比較＞



★正答率度数分布



○領域別にみると、「データの活用」の領域は、全国を2.8%上回った。

▼全体的に全国の平均正答率を下回った。

▼「図形」の領域が全国を6.0%下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

算数(4年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

本問は、平行四辺形の作図ができるかどうか問われている問題である。図形の指導においては、定義や性質、作図の学習だけではなく、学習した図形を切りとらせたり、敷き詰めさせたりするなど、操作的活動を取り入れることが大切である。算数的活動を通じて感覚を養うことで、「作図を通して図形の性質を学ぶ」とこと「図形の性質を学ぶことを通して作図ができるようになる」という両輪の意識を持った指導が重要である。

正答率は、本市が49.8%、全国が60.3%で、10.5%全国を下回った。

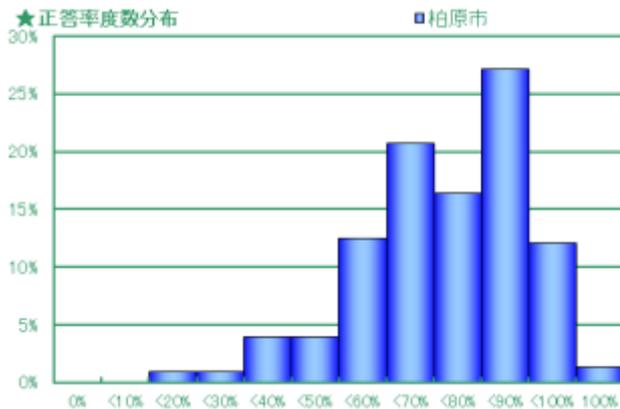
正答・・・(作図問題)

国語(5年)

問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率		＜標準スコアによるカテゴリー間の比較＞
		柏原市	全国	
	全体	71.8	72.7	
	基礎	75.8	76.6	
	活用	62.8	64.1	
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	75.4	75.9	
	情報の扱いに関する事項	40.9	41.7	
	我が国の言語文化に関する事項	62.3	67.4	
	話すこと・聞くこと	66.4	69.8	
	書くこと	65.3	67.8	
評価の観点	読むこと	76.1	74.2	
	知識・技能	69.5	70.4	
	思考・判断・表現	69.8	70.7	
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	69.5	72.0	
	選択式	69.7	71.4	
	短文式	76.4	75.2	
	記述式	69.9	72.1	



- 「短文式」問題は全国を1.2%上回った。
- 領域別にみると、「読むこと」の領域が全国を1.9%上回った。
- ▼全体的に全国を下回る結果だった。

※ ○印:成果 ▼:課題

国語(5年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

連用修飾語について理解しているかを問う問題である。文法について、正しく理解するように指導することが大切である。そのためには文法の学習の際に、形式や決まりを覚えるだけでなく、言葉の指す意味に着目しながら考えさせたい。

正答率は、本市が16.6%、全国が32.1%で、15.5%全国を下回った。

正答・・・ 4

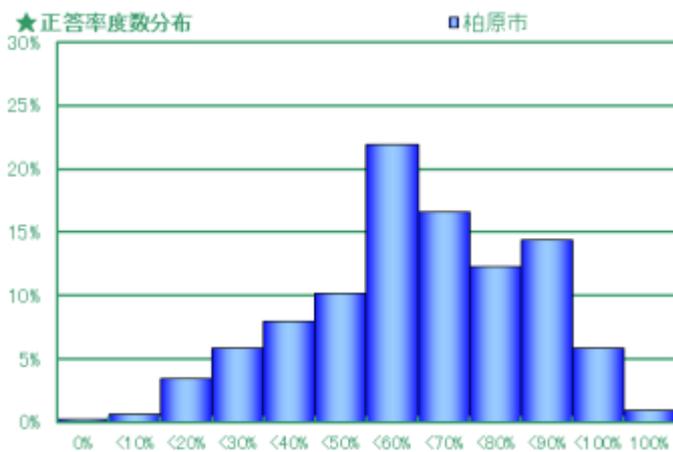
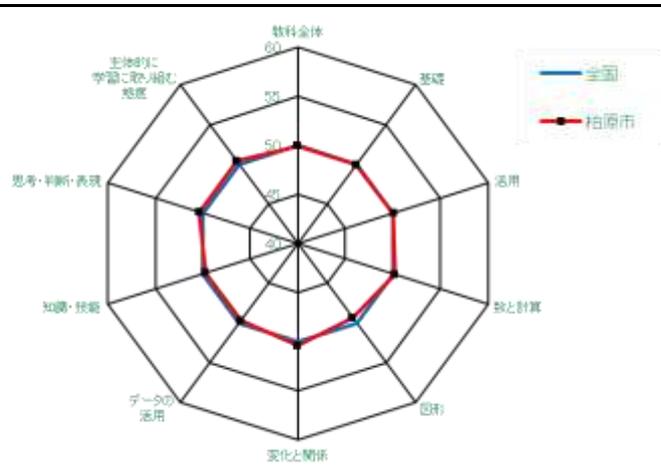
算数(5年)

問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
	全体	59.9	60.0
	基礎	66.3	66.5
	活用	43.4	43.3
学習指導要領の領域等	数と計算	65.0	64.5
	図形	52.5	54.4
	変化と関係	62.3	61.2
	データの活用	43.3	44.2
評価の観点	知識・技能	65.3	66.0
	思考・判断・表現	50.9	50.1
	主体的に学習に取り組む態度	50.2	49.1
問題形式	選択式	60.7	60.6
	短答式	64.4	65.0
	記述式	23.7	22.6

＜標準スコアによるカテゴリ間の比較＞



○全国の平均正答率と概ね同じ結果となった。
▼領域別にみると、「図形」の領域が全国を1.9%下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

算数(5年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

平均から全体の量を推測する問題である。示されたデータから問いを理解し、平均を求める。平均については児童が形式的に計算できればよいというのではなく、その意味を理解することが必要である。測定値の平均することについて、日常生活や他教科など、さまざまな場面を設定していくことが重要であることを授業づくりにおいても意識しておきたい。

正答率は、本市が32.6%、全国が40.4%で、7.8%全国を下回った。

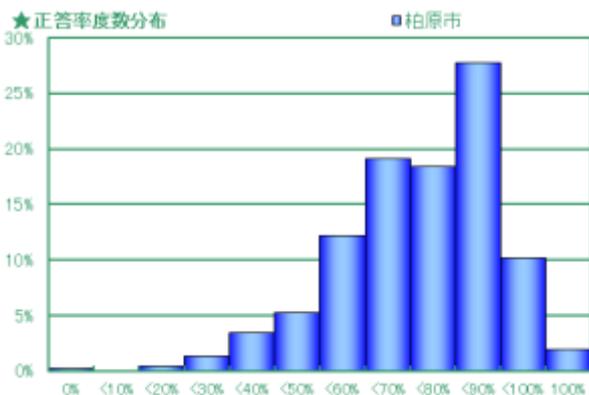
正答 ... 3

国語(6年)

問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率		＜標準スコアによるカテゴリー間の比較＞
		柏原市	全国	
	全体	71.9	74.5	
	基礎	76.1	78.4	
	活用	64.1	67.3	
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使い方に關する事項	77.0	80.2	
	情報の扱い方に關する事項	27.6	29.7	
	我が国の言語文化に關する事項	80.3	82.6	
	話すこと・聞くこと	85.1	85.9	
	書くこと	64.5	70.4	
評価の観点	読むこと	62.1	61.9	
	知識・技能	70.2	73.2	
	思考・判断・表現	67.6	70.1	
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	63.4	69.2	
	選択式	75.8	76.8	
	短答式	71.5	74.0	
	記述式	64.8	70.8	



○領域別にみると「読むこと」の領域が全国を上回っている。
 ▼全体的に全国を下回る結果だった。
 ▼「書くこと」の領域が一番開きが大きく、全国を5.9%下回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

国語(6年)問題で課題の見られた設問

正答... 2

敬語について理解し、正しく使えているかを問う問題である。相手と自分との関係を意識しながら、尊敬語や謙譲語などの敬語について理解することが重要である。敬語の役割や必要性について、児童の日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるようにすることが大切である。

正答率は、本市が57.6%、全国が61.7%で、4.1%全国を下回った。

著作権の関係で表示できません。

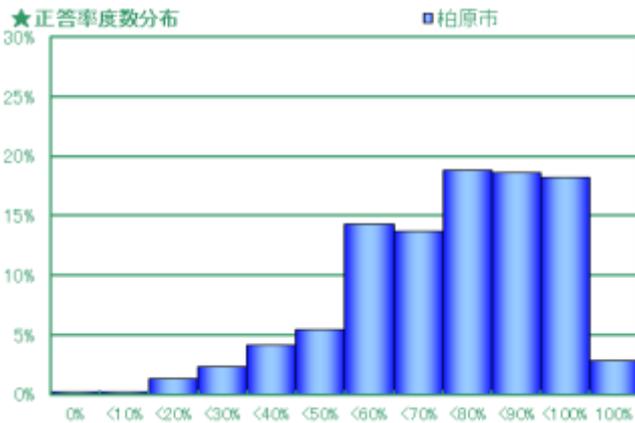
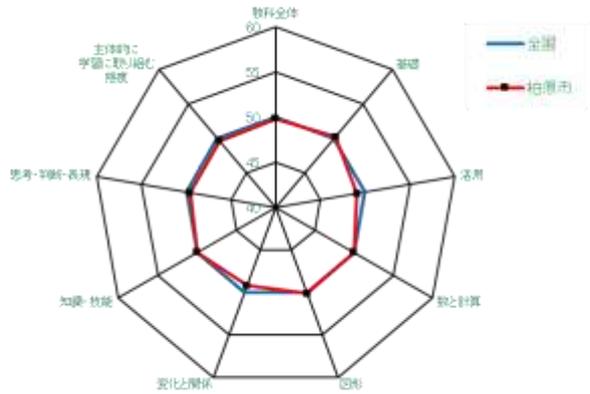
算数(6年)

問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
	全体	71.2	71.6
	基礎	75.8	75.3
	活用	59.5	61.9
学習指導要領の領域等	数と計算	74.4	74.6
	図形	74.2	73.9
	変化と関係	49.5	52.0
評価の観点	知識・技能	74.7	74.8
	思考・判断・表現	58.8	60.1
	主体的に学習に取り組む態度	61.3	62.2
問題形式	選択式	70.9	71.2
	短答式	74.1	75.0
	記述式	51.0	46.4

＜標準スコアによるカテゴリ間の比較＞



○基礎については全国を上回る結果だった。
○記述式の問題形式では、全国を4.6%上回った。
▼領域別にみると、「変化と関係」の領域が一番開きが大きく、全国を2.5%下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

算数(6年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

正答・・・120(m²)

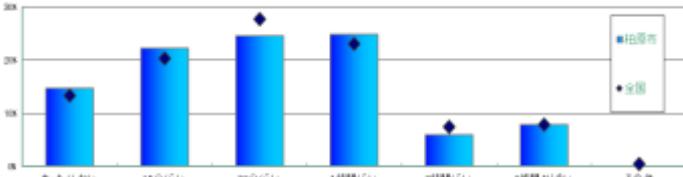
比を使って、一方の量から他方の量を求めることが問われている。日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し、それを日常生活に活かすことを通して、思考力、判断力、表現力等を身につける必要がある。日常の事象に関して、2つの数量の関係を簡単な整数で表すといった活動を通し、比による数量の関係を身に付けていく機会を設けることが大切である。

正答率は、本市が39.4%、全国が49.0%で、9.6%全国を下回った。

アンケート結果 (i-Checkより)【学習習慣①】

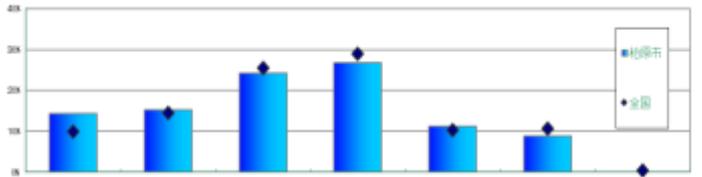
○学校の授業以外で、平日（月～金）は、1日にどれくらい勉強しますか。（塾などでの勉強時間も含む）

3年



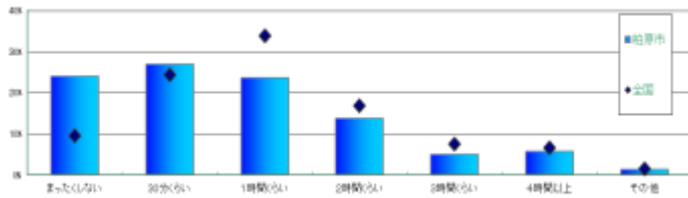
選択肢	1 まったくしない	2 15分以内	3 30分以内	4 1時間以内	5 2時間以内	6 2時間以上	その他
全国	13.3	20.4	27.7	23.0	7.4	7.8	0.4
柏原市	14.7	22.2	24.6	24.8	5.8	7.9	0.0

4年



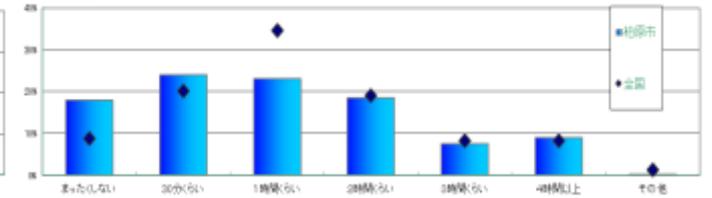
選択肢	1 まったくしない	2 15分以内	3 30分以内	4 1時間以内	5 2時間以内	6 2時間以上	その他
全国	9.9	14.4	25.5	29.0	10.3	10.7	0.2
柏原市	14.3	15.2	24.1	26.7	11.1	8.7	0.0

5年



選択肢	1 まったくしない	2 30分以内	3 1時間以内	4 2時間以内	5 3時間以内	6 4時間以上	その他
全国	9.6	24.3	33.9	16.8	7.5	6.5	1.5
柏原市	23.9	26.9	23.5	13.7	4.9	5.6	1.3

6年

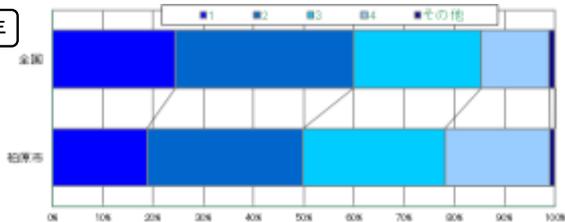


選択肢	1 まったくしない	2 30分以内	3 1時間以内	4 2時間以内	5 3時間以内	6 4時間以上	その他
全国	8.7	20.1	34.6	19.0	8.1	8.3	1.2
柏原市	17.9	24.0	23.0	18.5	7.4	8.9	0.2

○勉強するときは、自分で計画を立てていますか。（5年生、6年生のみ）

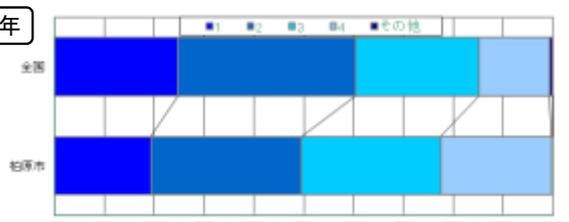
※クロス集計・・・学力調査の正答率を4等分し、上からA層、B層、C層、D層と分けています。

5年



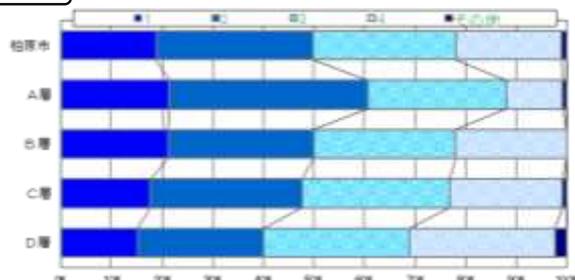
選択肢	1 いつでも	2 ほぼいつでも	3 あまりない	4 まったくない	その他	肯定率
全国	24.4	35.6	25.3	13.6	1.1	60.0
柏原市	18.8	31.1	28.2	20.9	0.9	49.9

6年



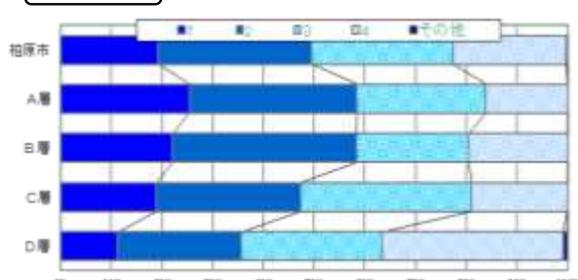
選択肢	1 いつでも	2 ほぼいつでも	3 あまりない	4 まったくない	その他	肯定率
全国	24.8	35.6	24.8	14.0	0.7	60.4
柏原市	19.4	30.2	27.9	22.3	0.2	49.6

クロス集計



選択肢	1 いつでも	2 ほぼいつでも	3 あまりない	4 まったくない	その他	肯定率
柏原市	18.8	31.1	28.2	20.9	0.9	49.9
A層	21.5	39.3	27.4	11.1	0.7	60.7
B層	21.2	28.8	28.0	22.0	0.0	50.0
C層	17.7	30.0	29.2	22.3	0.8	47.7
D層	15.2	25.0	28.8	23.8	2.3	40.2

クロス集計



選択肢	1 いつでも	2 ほぼいつでも	3 あまりない	4 まったくない	その他	肯定率
柏原市	19.4	30.2	27.9	22.3	0.2	49.6
A層	25.4	33.1	25.4	16.1	0.0	58.5
B層	22.1	36.3	22.1	19.5	0.0	58.4
C層	19.0	28.4	33.6	19.0	0.0	47.4
D層	11.3	24.3	27.8	35.7	0.9	35.7

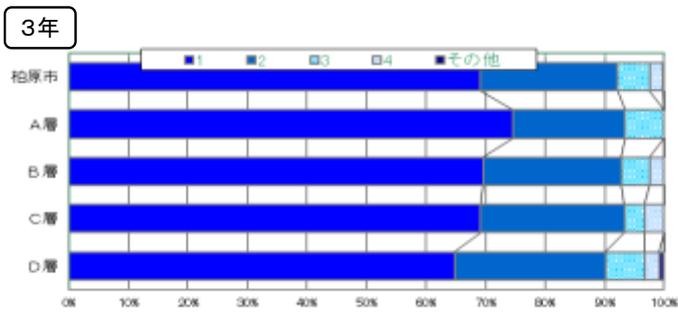
○「平日の勉強時間」について、3・4年生は概ね全国平均と同様の学習時間であるが、他の学年は全国と比較して学習時間が短い傾向にある。また、市で設定している学習時間のめやす（学年×10分）に達していない児童、特に「全くしない」児童も多い。

○「自分で計画を立てているか」について、学力調査の正答率が高い児童ほど、自分で計画して学習をすすめている割合が高い。

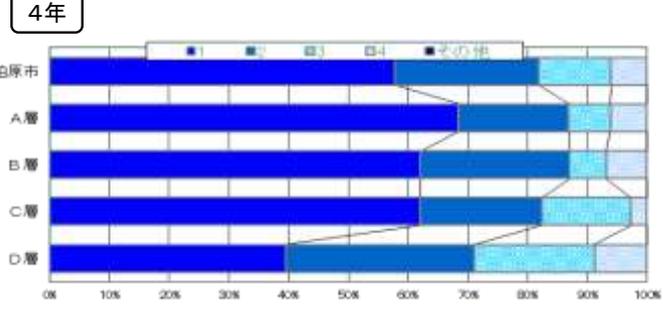
○テストで間違えた問題は、後でやり直していますか。

※クロス集計・・・学力調査の正答率を4等分し、上からA層、B層、C層、D層と分けています。

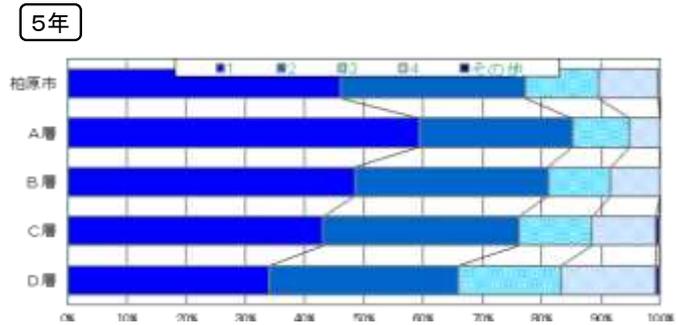
(1. いつもやり直している 2. だいたい 3. あまり 4. そのままにしてしまう)



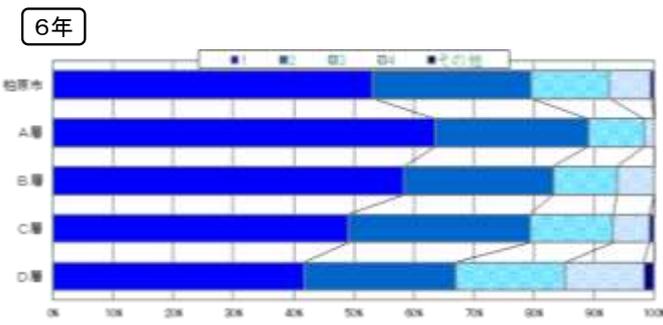
選択肢	1	2	3	4	その他	肯定率
	いつもやり直している	だいたい	あまり	そのままにしてしまう		
柏原市	69.2	23.0	5.4	2.2	0.2	92.1
A層	74.6	18.9	6.6	0.0	0.0	93.4
B層	69.6	23.2	4.8	2.4	0.0	92.8
C層	69.2	24.2	3.3	3.3	0.0	93.3
D層	64.8	25.4	6.6	2.5	0.8	90.2



選択肢	1	2	3	4	その他	肯定率
	いつもやり直している	だいたい	あまり	そのままにしてしまう		
柏原市	57.7	24.1	12.1	6.1	0.0	81.8
A層	63.4	18.4	7.0	6.1	0.0	86.8
B層	62.1	25.0	6.0	6.9	0.0	87.1
C層	61.9	20.4	15.0	2.7	0.0	82.3
D層	39.5	31.6	20.2	8.8	0.0	71.1



選択肢	1	2	3	4	その他	肯定率
	いつもやり直している	だいたい	あまり	そのままにしてしまう		
柏原市	46.1	31.1	12.4	10.0	0.4	77.2
A層	59.3	25.9	9.6	5.2	0.0	85.2
B層	48.5	32.6	10.6	8.3	0.0	81.1
C層	43.1	33.1	12.3	10.8	0.8	76.2
D層	34.1	31.8	17.4	15.9	0.8	65.9



選択肢	1	2	3	4	その他	肯定率
	いつもやり直している	だいたい	あまり	そのままにしてしまう		
柏原市	53.2	26.4	13.0	6.8	0.6	79.6
A層	63.6	25.4	9.3	1.7	0.0	89.0
B層	58.4	24.8	10.6	6.2	0.0	83.2
C層	49.1	30.2	13.8	6.0	0.9	79.3
D層	41.7	25.2	18.3	13.0	1.7	67.0

○全体的にすべての学年で「いつもやり直している」児童の割合が多い。
 学力層別にみると、どの学年も学力調査の平均正答率が高い児童ほど「間違った問題をやり直す」意識が高いことがわかる。

○授業において、テストを返す際に間違った問題を児童が意欲的にやり直すことができるような活動を取り入れることが重要である。
 また、子どもたちに「問題を間違えたときこそ、力をつけるチャンスである」という意識を持たせることができるように、学校でも家庭でも声をかけていくことが効果的である。

○教育委員会としての今後の取組み

- ・ICT機器の導入による情報活用能力の向上と並行して、「書く力」や「書くための読む力」といった言語能力の向上をねらった具体的な施策の提案及び実施をしていく
- ・教員の指導力育成のために、教員が当事者意識を持ち、主体的に参加できる研修を企画・運営していく
- ・効果的な研修を精選して行い、教員が子どもと向き合う時間を確保する。
- ・優れた実践をしている教員による研修や公開授業をとおして、経験の浅い教員にも高い指導技術を習得できるようにする
- ・幼小中一貫教育をより一層推進し、系統性・連続性のある学びの研究を進める
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みの好事例を収集し、学校や保護者に啓発していく
- ・情報モラルについて学べる研修を実施し、保護者に啓発していく

○学校における今後の取組み

- ・教員全員が指導力向上と授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を充実させる
- ・教科横断的に「書く」機会や「書くための読む」機会を多く設け、組織的に「言語活動」の充実を図る
- ・授業においてICTを積極的に活用した授業づくりをすすめる
- ・道徳教育や人権教育を中心に、自他ともに大切にし、思いやりや優しさが育まれる心の教育を充実させる
- ・各校区で幼小中の教員や子どもたちの交流を充実させ、11年間の連続した視点での指導を確立させる
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みを充実させる

○家庭にお願いすること

学習能力の向上につなげる

① 基本的な生活習慣の定着

- ・決まった時間に寝起きしてリズムを意図的につくる
- ・体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう、おおむね8時間以上の睡眠を取るよう促す
- ・朝ごはんを食べるよう促し、脳を生き生きとさせ、やる気や集中力を高め、学校での学習能力の向上につなげる
- ・学習に必要な持ち物がそろっているか確認する習慣を作る

② 家庭学習習慣の定着

- ・発達段階に応じて家庭学習時間のめやす(学年×10分)を決める
※中学第1学年生徒は、7年生とする
- ・毎日の宿題ができているかを確認する

③ スマートフォンやゲーム等、メディアについてのルール作り

- ・テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、ルールを決める
- ・携帯電話やスマートフォンの使用状況について確認する